

科目名称:	障害児保育演習Ⅱ	
担当者名:	中村 明成 小西 ふみ子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
障害児保育を理解する上で不可欠な子どもの発達理解（生物学的、環境的、順序性など）を深めると主に、障害特性への理解を進めていく。インターンシップ（現場参加）での子どものケースの理解から、関連する担当者、担当機関なども理解し、子ども、保護者、家庭を支えるための幅広い支援を知り、その中で保育者がどのような役割を果たしているかを理解する。		
授業の達成目標・到達目標		
インターンシップ（現場参加）でのカンファレンスの内容を把握する。現場の保育者ともミーティングを実施し、学生同士がよく意見を出し合う。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)			100		100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》（中村） 障害者支援施設支援員 社会福祉士 ケアマネージャー	《経験年数1》 11年10か月
	《内容2》（小西） 保育士	《経験年数2》 42年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
障害のある当事者の講話レポート	内容を理解し、質疑応答を含め自分の考えを表現できる	内容を理解し、質問ができ表現できる	内容を理解できる	内容の理解が不十分である
障害のある子どもを持つ親及び支援者の講話レポート	内容を理解し、質疑応答を含め自分の考えを表現できる	内容を理解し、質問ができ表現できる	内容を理解できる	内容の理解が不十分である

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーションと学習の進め方	シラバスを読んでおく	30分
第2回 障害児保育での療育の実際	前期演習Ⅰでの「療育」の理解を振り返る	30分
第3回 体験のまとめと討議(グループディスカッション)(レポート提出)	体験レポート作成	30分
第4回 体験のまとめと討議(グループディスカッション)(レポート提出)	体験レポート作成	30分
第5回 ミュージックケア体験	ミュージックケアの歴史の振り返り	45分
第6回 ミュージックケア体験	ミュージックケアの歴史の振り返り	45分
第7回 障害のある当事者(2名)による講話	講話レポート作成	45分
第8回 障害のある当事者(2名)による講話	講話レポート作成	45分
第9回 当事者の講話のディスカッション	講話レポートを読み返す	45分
第10回 障害のある子どもを持つ親及び支援者の講話	講話レポート作成	45分
第11回 障害のある子どもを持つ親及び支援者の講話	講話レポート作成	45分
第12回 親及び支援者の講話のディスカッション	講話レポートを読み返す	30分
第13回 事例研究のガイダンス	インターンシップの記録をまとめる	30分
第14回 成果発表会の冊子作製	自分の担当ページの読み直し(誤字脱字チェック)	45分
第15回 成果発表会の発表原稿作成	発表についての見直し	45分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。

また、事前事後学修としては、外部講師の講話のレポートを読み直し、各個人で課題をまとめる

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。

外部講師の講話レポートを添削し、評価する。またレポートをもとにディスカッションを行い、発表内容なども評価する(100%)。

課題に対してのフィードバック

講話レポートを評価し、ディスカッションを行うことで、教員の意見も各学生に伝える。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。